

# 花火による子どものやけどに注意しましょう

医療機関ネットワークには、**花火で遊んでいる際にやけどを負った**という事故情報が2018年度から2022年度までの**5年間で、60件**寄せられています。そのうちの**半数以上は1~3歳児**でした。

## 主な事例

- 花火で遊んでいる最中に花火の火を掴もうとして受傷。  
(1歳6カ月・女児)
- 左足の靴に火の粉がうつり、燃えていた。  
(3歳2カ月・女児)
- 花火を捨てる前に先端を握ってしまった。  
(2歳10カ月・男児)

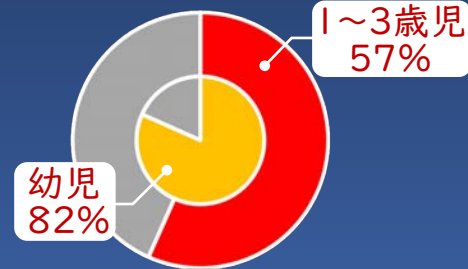


図. 花火による事故の年齢別割合 (n=60)

## テスト結果

- ▶ **向かい風で花火を持つと、火花等によりやけどを負う危険性**があります
- ▶ **濡れた地面などに線香花火が落ちると爆ぜる危険性**があります
- ▶ **温度が低いように見える燃えカスであっても、落下や消火後しばらくはやけどを負うほどの高温**でした

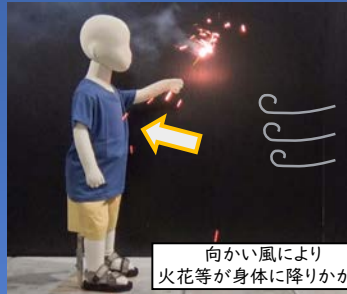


写真. 吹出た花火の火花等が身体に降りかかる様子



写真. 濡れた地面に落ちた線香花火が爆ぜる様子



落下直後: 600℃以上

30秒後: 約200℃

約60秒後: 約70℃

写真. 落下した燃えカスの温度変化 (スパークラー、上段は外観、下段は熱画像装置)

## 消費者へのアドバイス

- **3歳以下の子どもの事故が多く発生**しています。取扱説明書に従い、3歳以下の子どもに花火を持たせることは避け、距離を置いてみせるなどして花火を楽しみましょう
- 花火が消えたらすぐに水につけましょう。

**温度が低いように見える燃えカスでも高温**の可能性があります。

## 花火で遊ぶ前にチェック!

- ✓ **肌の露出が多い服装・履物は注意**
  - ▶ 線香花火がサンダルを履いた足に落ちた事例も!
- ✓ **裾の広がった服装は注意**
  - ▶ 気が付かないうちに、着衣に着火する危険性!
- ✓ **風下に立たない、風が強い日は遊ばない**
  - ▶ 風で火花が接近!
- ✓ **やけどを負った場合に備え、水を流せる準備**
  - ▶ すぐに冷やして応急処置!
- ✓ **着衣に着火した場合の対処法「ストップ・ドロップ・アンド・ロール」**
  - ▶ 燃えている部分を地面に押しつけて消火!



着衣に火がついても、絶対に走らない!



1. ストップ!! (止まって)

2. ドロップ!! (倒れて)

3. ロール!! (転がって)